



学長からのメッセージ

帯広畜産大学長 長澤 秀行

日本の食料生産の中心地として「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立単科大学です。第二期中期目標計画に掲げたミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること。」としています。

本学の人材育成目標は、食と農の大切さ、動植物の命の尊さを心得た素養を基礎として、いわゆる「Farm to Table」の幅広い領域を学際的視点で捉える能力と、あらゆる現場に適應できる知識・実践力を有するとともに、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材を育成することです。

また、「食の安全確保」を担う専門家として問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備えた人材を育成することが、本学のミッションであり社会的役割です。教育プログラムの実施に関しては、地域の試験研究機関や農業・食品あるいは動物関連企業、更に、動物衛生・食品安全を担う国際機関、開発途上国に対する国際協力機関等との連携によって、ミッションに掲げたグローバル人材の育成を目指します。

畜大牛乳アイスクリームを発売

平成25年12月20日、帯広畜産大学では、畜産フィールド科学センター乳製品工場において製造した「畜大牛乳アイスクリーム」を帯広畜産大学生協で発売しました。

この「畜大牛乳アイスクリーム」は、「畜大牛乳」や十勝産生クリームなどを材料に使用し、濃厚な味が特徴です。内容量は95ミリリットルで、パッケージは「畜大牛乳」と同様に本学の放牧風景がデザインされています。「畜大牛乳アイスクリーム」も「畜大牛乳」と同様に地域のみなさまに親しんでいただき、本学をより身近に感じていただきたいと考えております。



帯広畜産大学の概要

大学の沿革

昭和16年 4月	帯広高等獣医学校
昭和24年 5月	帯広畜産大学
平成16年 4月	国立大学法人帯広畜産大学 畜産学部 (共同獣医学課程、畜産科学課程) 大学院畜産学研究科 (修士課程、博士前期・後期課程)

役員・教職員数

役員	6	(3)
教員	135	
事務・技術等職員	96	
合計	237	(3)

※平成26年5月1日現在、()は非常勤で内数

学生数

	男	女	計
学部	559	622	1,181
大学院 (修士・博士前期)	66	47	113
(博士後期)	17	10	27
別科	27	14	41
合計	669	693	1,362

※平成26年5月1日現在

留学生数

	男	女	計
19カ国から	36	33	69

※平成26年5月1日現在

帯広畜産大学広報室

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 TEL.(0155)49-5228 / FAX.(0155)49-5229

mail kouhou@obihiro.ac.jp



国立大学法人 帯広畜産大学の取り組み 平成26年5月

帯広・十勝から「花は咲く」の大合唱
「ちくだい馬フォーラム」を開催

本学乳製品工場が食品安全マネジメントシステム
FSSC22000の認証を取得

米国コーネル大学と学術交流協定を締結

北海道立総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結

JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣

畜大グローバル人材育成講座を開講

平成25年度フードバレーとかち人材育成事業を実施

帯広市文化スポーツ振興財団との連携事業
「みんなのちくだい。」を実施

トーストアートでギネス取得に本学学生農業サークル
「あくりとかち」が大活躍



帯広・十勝から「花は咲く」の大合唱

平成26年3月21日、帯広畜産大学講堂において、「帯広・十勝に花は咲く」東日本大震災チャリティーコンサートを開催しました。帯広ひまわり、帯広第二ひまわり幼稚園の園児による合唱で開幕し、続いて池田高等学校吹奏楽部が、踊りながら演奏する楽しい「ダンプレ」を披露、続いて陸上自衛隊第5音楽隊が映画音楽などを演奏しました。最後に来場者と出演者全員の約500名が心をひとつにして「花は咲く」を大合唱、全員が復興を願いました。復興支援を目的とした募金活動も行われ、また、実行委員会が撮影した「花は咲く」の大合唱映像を「100万人の花は咲くNHK東日本大震災支援プロジェクト」に投稿しました。



参加者と出演者全員による「花は咲く」の大合唱

本学乳製品工場が食品安全マネジメントシステム FSSC22000の認証を取得

平成26年3月27日、ISO（国際標準化機構）の審査・認証・登録を行っている会社ロイド レジスター クオリティ アシユアランス リミテッド（LRQA）の日本・韓国統括代表 調 俊彦氏から、本学長澤秀行学長に食品安全マネジメントシステムFSSC22000（Food Safety System Certification 22000）の登録認証書が授与されました。このFSSC22000は、食品衛生の管理手法であるHACCP（ハサップ）を発展させた世界中で注目されている国際規格で、本学の畜産フィールド科学センター乳製品工場の製造工程が厳しい基準を満たしているということで、認証されたものです。LRQAでは、国内の大学が取得した例はなく、本学が初めてとなります。このような取り組みを教育に生かし、「食を支え、くらしを守る」人材の育成に役立てていきます。



長澤学長、調LRQA日本・韓国統括代表（左から）

畜大グローバル人材育成講座を開講

本学では、平成25年度から、授業では実感が難しい現場実態等について、多様な分野の方からの体験談等を通じた、幅広い教養と職業観及び人生観を涵養することを目的として、畜大グローバル人材育成講座を開講しました。第1回目の講座は、平成25年5月24日、三菱電機（株）常務執行役開発本部長 堤和彦氏をお迎えして「総合電機メーカーの研究開発」と題して、三菱電機の成長戦略、開発戦略、先端技術開発事例についての紹介と企業技術者に求められること等について、講義をしていただきました。この他に、富士レビオ（株）CL試業新規開発部帯広研究グループ長 安住 純一氏、北海道立総合研究機構林産試験場利用部微生物グループ研究主任佐藤 真由美氏、東洋水産（株）総合研究所副所長 花岡 彰宏氏をお招きし、計4回の講義を実施しました。



講義をする堤和彦三菱電機（株）常務執行役開発本部長

米国コーネル大学と学術交流協定を締結

平成25年12月2日、本学は米国コーネル大学と学術交流協定を締結しました。コーネル大学（本部：米国ニューヨーク州）は、1865年に設立された全米屈指の大学であり、農学、獣医学、生命科学、工学、経営学等では著名な大学です。特に、獣医学カレッジは、臨床・診断、公衆衛生等の面で優秀な獣医師・研究者を育成しており、その水準は全米の大学の中でもトップクラスです。本学では現在、獣医学教育の欧米認証取得を目指し、充実強化を進めているところであり、この度の協定により、同大学と「食品衛生学分野」の共同研究が進められます。さらに同大学は、獣医学教育のみならず農業に関する教育研究と社会貢献にも高い実績があり、農学全般における学術交流の進展が期待されます。



コーネル大ブルース所長（中央）、トールズ副学長（右）、本学倉園副学長

平成25年度フードバレーとかち人材育成事業を実施

平成25年5月21日、本学において、フードバレーとかち人材育成事業「アグリ・フードビジネスプランコース（入門編）」の開講式が行われました。このフードバレーとかち人材育成事業は、帯広市との共同事業で、チャレンジ精神等を持って、企業の発展、ひいては地域の経済発展に寄与するリーダーを育成することを目的として、平成24年度から実施しています。平成25年度は、「アグリ・フードビジネスプランコース」、「食品安全管理コース」、「循環型経営コース」を実施した他、特別講習6回、フォローアップ事業3件を実施し、延べ291名が受講しました。この人材育成事業をきっかけに、新たな商品開発も進められています。



受講生9名と前列左3番目から長澤学長、米沢帯広市長（開講式）

「ちくだい馬フォーラム」を開催

平成25年9月15日、帯広畜産大学馬場において、馬とのふれあいを通して、地域の子供の情操教育や高齢者の心身の安定を図るため、馬と親しむ機会の拡大を進め、馬を通じた健全なまちづくりの推進を目的として、「馬フォーラム」を開催しました。当日は、体験乗馬会、障がい者乗馬実演、帯広畜産大学馬術部による障害飛越演技が行われ、また、公益財団法人「ハーモニセンター」が運営する「ポニースクールかつしか」（東京・葛飾）の小中学生による、走る馬の上での倒立や2人組での肩車などの軽乗演技（曲芸）には、来場者から大きな拍手が送られていました。約170名の参加者は、馬とのふれあいを楽しんでいました。また、5人のパネリストによる「馬を用いた教育・福祉・地域貢献」をテーマに馬座談会も開催されました。



馬の上で軽快な演技をした軽乗演技（曲芸）

北海道立総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結

平成25年9月26日、本学は地方独立行政法人北海道立総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結しました。この協定は、相互に連携・協力し、双方が行う研究開発や人材育成等を効果的に推進することにより、地域の産業及び経済の発展に寄与することを目的として締結したものです。調印式では、長澤秀行学長と北海道立総合研究機構 丹保憲仁理事長が相互に協定書にサインし、固い拍手を交わしました。今後は連携協議会を設置して、研究開発の推進、人材交流・人材育成、研究資源の共有などについて、具体的な連携事業を進めていきます。



丹保理事長と長澤学長（左から）

帯広市文化スポーツ振興財団との連携事業「みんなのちくだい。」を実施

平成24年度に締結した帯広市文化スポーツ振興財団との連携協定により、平成25年度から、本学学生サークルが主体となって企画し、スポーツを通じた地域との交流を図るイベントを実施しています。平成25年度は、9月に、「山登りは歩くだけじゃない!! 畜大生の教えるクライミング講座」、「君にもできる!? 宙返り! 跳んで回ってみませんか? ~体操競技体験会in畜大~」、「みんなで乗ろう、熱気球」の3事業を実施し、終了後、参加者等とバーベキューで交流が行われました。さらに、11月には馬術部による「乗馬体験会」、平成26年2月には「アメフト部によるアメフト体験会」と計5回のイベントを実施しました。



体操競技体験会in畜大

JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣

本学では、平成24年度から、在学生・卒業生をJICA青年海外協力隊の長期隊員・短期隊員として、南米パラグアイに派遣する「帯広-JICA協力隊連携事業」を実施しています。本事業は、派遣期間約2年の長期隊員と派遣期間約2ヶ月の短期隊員の組み合わせで、パラグアイ国における家畜飼養管理技術、家畜の健康・衛生管理技術向上のための支援を行い、同国の酪農の発展を図るとともに、獣医・農畜産分野における国際協力経験機会を通じたグローバル人材の育成を行うことを目的とした事業です。

平成24年度には、長期4名、短期3名、平成25年度には、短期3名の在学生・卒業生がパラグアイ国に赴任し、活躍しています。



平成25年8月第2回短期派遣隊員 左後方から、宮崎さん、小牧さん、千葉 君（後方5番目）

トーストアートでギネス取得に本学学生農業サークル「あぐりとかち」が大活躍

平成25年7月7日、帯広駅前とかちプラザにおいて、本学学生農業サークル「あぐりとかち」が「世界トーストアート・イン・十勝」の実行委員として参加し、ギネス世界記録に挑戦しました。これは、十勝産小麦を全国にPRするために行われたもので、賞味期限が切れた小麦粉を使って、焼きあげた食パンに、黒、茶の焦げ目を付け、約1万6500枚を並べ、当日は「あぐりとかち」のメンバー20名が参加し、一般市民のボランティアと共に約3時間かけて、162・8平方メートルの巨大なモザイク画を完成させました。展示後、使用した食パンは、家畜の飼料として活用されました。後日、この十勝開拓者依田勉三の肖像トーストアートが英国ギネス社の世界記録に認定されました。



完成を喜ぶ実行委員の皆さん